

このコーナーは、さまざまな活動で活躍している町民にスポットを当てて紹介します。



わたなべ たもん
スキーで全国大会3位 渡邊 太文さん(15歳)

友達に誘われて

「5歳の時に、友達に誘われてスキーを始めました」と話す渡邊太文さん。平日は岩見沢市のグリーンランドホワイトパークのスキー場で、休日は三笠市のスキー場で、桐越浩志コーチとともに練習に励んでいます。

これまでの成績を振り返って

渡邊さんの滑走は、スキーを始めた時から多くの人々を魅了し、7歳(小学1年生)の時に「第56回全町スキー大会」1・2年の部で優勝したのを皮切りに、11歳(小学5年生)の時には、各都道府県スキー連盟の強化選手も参加する全国屈指の大会「JOCジュニアオリンピックカップ」に小学5・6年生の部で初出場。12歳(小学6年生)の時には、同大会で「大回転」「回転」とともに4位入賞を果たしました。これらの実績が評価され、中学1年生からは北海道スキー連盟強化指定選手にも選ばれました。

また、先月3日から山形県で開かれた「第54回全国中学校スキー大会」の「大回転」で自己最高の3位に、「回転」でも7位に輝くなど、数々の大会で優秀な成績を収めています。

今月24日からは岩手県雫石スキー場でJOCジュニアオリンピックカップが開催され、「大回転」で前回大会6位入賞を果たした渡邊さんは「優勝できるようにリベンジしたい」と力強く語ってくれました。



2月7日、全国中学校スキー大会で入賞したことを報告しました。

何事も一生懸命にやれる力がついた

スキーをやっている良かったことを聞くと「小さい頃からやっていたことで何事にも一生懸命にやれる力がつきました。スキーは日によってコンディションが違う中で、その日に合わせて滑りを変える対応力もつきました。また、スポーツそのものを楽しんでやるという考えを持つことができました」と話してくれました。

妥協せず文武両道を目指して

渡邊さんに今後の抱負を聞くと「まずは第1志望の高校に入って、いろいろな環境が変わる中で、何事にも妥協せず、勉強も怠らずに文武両道で頑張りたいと思います」と語ってくれました。



【プロフィール】
わたなべ・たもん
平成13年8月30日生まれ。
朝日3丁目在住、栗山中学校(3年生)に在学中。サッカー部ではゴールキーパーを務め、昨年の全道大会ではベスト8に進出。

皆さんをファイターズ戦にご招待！
栗山町民応援デー

北海道日本ハムファイターズでは4月13日に札幌ドームで開催される福岡ソフトバンクホークス戦のC指定席(塁側は選べません)に、町内にお住まいの方50組100人をご招待します。

※応募多数の場合は、抽選となります。

対象試合

◇試合月日 4月13日(木)

◇試合会場 札幌ドーム

◇試合開始時間 午後6時

◇対戦相手 福岡ソフトバンクホークス

申込方法

球団公式サイト(パソコン・スマートフォン・携帯電話)にアクセスの上、所定の申し込みフォームに必要な事項を入力し送信
①パソコンの場合は、左記のアドレスにアクセスし、申し込みフォームに必要な事項を入力

<http://www.fighters.co.jp/kansen>

②スマートフォン・携帯電話の場合は、下記のQRコードよりアクセスし、申し込みフォームに所定事項を入力



※QRコードは「株式会社デンソーウェア」の登録商標です。



申込期間

3月1日(水)～17日(金)

その他

①当選者で別の席種を希望される場合は、試合日当日に札幌ドーム場内前売券売場で座席変更を受け付ける(有料・席数に限りあり)

②当選通知は、試合日の1週間前までにメールで送付

※[fighters.co.jp] [mail.fighters.co.jp]の各ドメインからのメールを受信できるよう事前に設定をお願いします。

③応募いただいた個人情報(株式会社北海道日本ハムファイターズが適切に管理し、本件を含むチケット関連のDM・アンケートなどによる案内以外には利用されない)

問い合わせ

北海道日本ハムファイターズ
お客様センター
011(857) 3939

この機会にお祭りに参加してみませんか？
第26回YOSAKOIソーラン祭り 市民審査員募集

YOSAKOIソーラン祭りでは、さまざまな形で気軽に祭りに参加できるように、チームの演舞を審査する「市民審査員」を募集しています。

応募条件

- ①祭りの理念や募集要綱に賛同し、真剣に演舞を審査できる方
- ②今年6月の時点で中学生以上の方
- ③チーム関係者以外の方
- ④6月10日(土)と11日(日)の指定された時間(いずれか1日)に審査可能な方(第26回YOSAKOIソーラン祭り市民審査員募集要綱を参照)

応募方法

①YOSAKOIソーラン祭り公式ホームページ(左記)の応募フォームより、パソコンあるいはスマートフォンで申し込み
<http://www.yosakoi-soran.jp/>

②応募用紙を公式ホームページよりダウンロードもしくは、実行委員会に連絡して取り寄せ、ファックスあるいは郵便で申し込み

募集期間

3月1日(水)～4月21日(金)(締切日必着)

※抽選結果の通知は5月上旬を予定しています。

募集定員

全130人(予定)

※募集定員を超えた場合は、抽選となります。

審査内容

◇月日 6月10日(土)と11日(日)のいずれか1日のみ

◇時間 午前9時から午後10時までの中で3時間程度

場所

大通公園周辺(札幌市中央区)

応募用紙送付先・問い合わせ

YOSAKOIソーラン祭り
実行委員会
011(231) 4351
011(233) 4351
Eメール
shinsa@yosakoi-soran.jp
060-0001

札幌市中央区北1条西2丁目
北海道経済センター4階





2/10 今後の方針を学ぶ NPO活動応援セミナー

NPO法人の組織運営について理解を深めようと、「NPO活動応援セミナー」が総合福祉センター「しやるる」で開かれました。講師に北海道NPOサポートセンター理事の佐藤隆さんを招き、第1部ではNPO法人向けに今後の方針などを、法人関係者7人に説明しました。第2部では町の地域おこし協力隊向けに、自立に向けた講座を開催。「2年目に自立に向けた計画を立てて、3年目に実行してみる事が大事」と、隊員7人にアドバイスをしました。



1/24 感謝の気持ちを大切に 二條実穂さんが特別講演

栗山小学校でリオデジャネイロパラリンピックの車いすテニス女子ダブルスで4位に入賞した、日本代表の二條実穂さん（シグマックス所属）を招いた特別講演が行われました。参加した栗山小学校の児童や一般町民ら約300人に「周りの人への感謝の気持ちを大切にしてください」と講演。その後、車いすテニス教室が行われ、二條さんがラケットの持ち方や車いすの操作方法を説明しました。栗山小4年の濱田玲くんは「車いすテニスは難しかったです」と話していました。

栗山高校の3年生4人が、地域の高齢者に手作り手芸品をプレゼントしました。この取り組みは福祉の心を学ぶため、町社会福祉協議会の学校ボランティア活動普及推進事業を活用して今年で6回目。南町内会で行われたふれあいサロンの参加者12人に、同校の「生活と福祉」の科目を選択した3年生一人ひとりが手作りのカレンダーとコースターを手渡ししました。同サロンの河村茂さんは「毎年、高校生と交流できるこの時期を楽しみにしています」とお礼の言葉を述べました。

2/14 高齢者にプレゼント 栗山高校



1/26 みんなが触れ合える場を 富士でカフェがオープン

ふじ団地集会所が、まちなかケアラフズカフェとしてオープンしました。高齢者が外に出る機会を提供することや、子どもを連れた若い世代にも自由に楽しめる空間を作るのが目的。現在、6人のボランティアが毎回2人ずつ交代で運営しています。初回となったこの日は幼児から80代まで約30人が訪れました。ボランティアの吉野幸子さんは「年齢関係なく誰もが触れ合える場所があるのは良いことだと思います」と話していました。カフェは毎週木曜の午後1時から4時まで開いています。



2/14 安全な暮らしに向けて 町が2社と協定締結

町はそらち南農業協同組合と「災害時における米穀の供給に関する協定」を、有限会社北海道新聞大竹販売所と「栗山町地域見守り活動に関する協定」を締結しました。これらの協定には、大規模災害時に、米の提供を行うことや町民が安心して暮らせる見守り活動を行うことなどが盛り込まれています。役場会議室で行われた締結式で、椿原紀昭町長は「地域住民が住み慣れた地域で、安心して暮らせる体制が整備される協定であり、深く感謝を申し上げます」と感謝の言葉を述べました。

2/4 栗の新商品が並ぶ 栗夢プラザ

栗山町産の栗やイチゴを使った地元商品の販売・試食会が、まちの駅「栗夢プラザ」で行われました。昨年までは水上農園のみの出品でしたが、今年は池田農園の「焼き栗」や水野農園のイチゴを使った「濃厚いちごソースのカタラーナ」と「濃厚いちごソースのギモーヴ」も同時販売。また、町産の栗を使った栗山製菓の新商品「栗最中」と「栗まんじゅう」の無料試食会も行われました。買い求めに訪れた客は約300人。出品された4事業者9品は全て完売し、大好評となりました。



2/7 交通安全推進に尽力 北海道社会貢献賞を受賞

長きにわたり交通安全指導員として従事されている山崎信治さんと金谷雅人さん、永田英隆さんが2月1日に北海道社会貢献賞（交通安全功労者）を受賞し、椿原紀昭町長へ報告に訪れました。山崎さんは昭和55年から、金谷さんと永田さんは平成2年から交通安全指導員となり、事故の未然防止などに努められました。報告を受けた椿原町長は「交通安全の推進に尽力されていることに心からお礼申し上げます」と3人を激励しました。



日本の伝統文化に触れてもらおうと、児童センターで「お茶教室」が開かれました。MOAインターナショナル栗山の伊達桃代代表や、初参加の民生委員児童部会のメンバーなど合わせて15人が講師となり、児童たち約90人が茶道に挑戦。講師に作法を学びながら、本格的な抹茶や和菓子を作りました。伊達代表は「日本の伝統文化を体験することで、命の大切さを考えてほしい」と話し、北原緩妃さん（8歳）は「お茶もお菓子もおもしろかったです」と話していました。

2/20 お点前ちようだいします 児童センター「お茶教室」

